

天文月報 100 卷に寄せて： 思い出すこと

佐藤修二

〈名古屋大学大学院理学研究科 〒464-8602 名古屋市千種区不老町〉

e-mail: ssato@z.phys.nagoya-u.ac.jp



天文月報 100 卷のこと、何ごとも長く続けること自体価値あること—この歳になって！—と身に沁みて感じます。私も一時期その天文月報編集長を勤めたことを誇らしく思います。私が天文月報の編集長の役を仰せつかったのは、1991.5～1993.5 の 2 年間だったそうです。その後の多事に取り紛れて忘れていました。往時茫茫々、記憶を拾い探してみます。

編集長の仕事は私にとって満更でもなかったのかもしれません。興にのったのか 2 年間で三つのことをしました。

一つは、この小冊子を全国の高校生に知らせたいと考えました。私は元々物理出身だったせいでもう一度、天文学の勉強を始めました。天文月報に載る記事を見て現代天文学の動向を知りましたから、色気を出して販路を拓げたいと思いました。天文学会は営利団体ではないので天文月報は店頭には並べられないことを知りました。そこで 1992 年の 85 卷・7 号を 1,000 部ほど増刷して全国の高校宛てに DM (ダイレクトメール) で送付しました (その時の手紙・写真)。結果は芳しくなく、あまり購読者数は伸びず (数十部)、掛かった費用とトントンだったと思います。

二つ目は、紙面と欄の分類を明確にしようと考えました。天球儀、スカイライト、星空市場などの欄はその時の産物です。

三つ目は、色刷 (「青」と「赤」を加える) を考えました。まず「青」を加えました (第 85 卷 1 号より)。次に「赤」を……、と思ったのですが、ど

高等学校
天文月報ご購読のお願い

「天文月報」は日本天文学会が発行する和文雑誌です。日本天文学会は天文学の進歩および普及を目的とした社団法人で、全国の天文学研究者、天文爱好者で組織されています。

この雑誌はやや硬質的印象を与えるかも知れませんが、内容は我が国における天文学研究の前線をできるだけ平易に解説し、また現場の雰囲気を一般的の多くの方々に伝えるという方針で編集しています。執筆者には 理科、とくに地学や物理に興味のある高校生にわかりやすく、おもしろいようなレベルと内容とするようお願いして書いてもらっています。

そちらの高校の図書室等に置かれると、きっと、興味をもつ人があると思います。また、将来、天文学や物理学の方面に進まれる人に役立つかもしれません。

参考に 最近号の 1 冊を送付しますので、ご覧の上、できましたら定期購読していただければありがたく存じます。

天文月報の購読のしかたは日本天文学会の通常会員になるのが一番お得で、便利です。会費は年額 6,000 円で、月々、配布されます。尚、この裏面にご入会の手続きを説明しています。

また、店頭には置いてありませんが、近くの書店に注文しても入手することができます。

平成 4 年 7 月 7 日

「天文月報」編集部一同 編集長 佐藤修二
〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台内 日本天文学会
電話 Fax (兼) 0422-31-1359

うしても会計のほうが先に赤字になることがわかりました。いまだに「赤」は加わっていないようです。

編集長時代はわずか 15 年前の出来事だったそうですが、その後、浪々の身となって、いろいろなことごとに取り紛れてあらかた忘れてしまいました。手元にはその時期の月報のみが欠本となっています。編集会議の開かれた、あの床の軋む木造の狭い部屋はまだ残っていますか？